

研究概要書：エアラインの行動を考慮した

空港需要マネジメントに関する研究

研究代表者名：空港研究部主任研究官 石倉智樹
 技術政策課題：(5) 人・物のモビリティの向上
 関係研究部：空港研究部
 研究期間：平成20年度～平成23年度
 総研究費(予定)：約42百万円
 コア：航空需要と空港計画の分析と評価
 大枠テーマ名：人のモビリティの向上
 大分類：社会経済動向やニーズの変化への対応
 中分類：人の移動に関する分析手法及び政策評価
 小分類：政策・マネジメントの評価手法の確立

1. 研究の概要

航空政策と市場におけるエアラインの行動の関係に焦点をおき、国内外における航空政策が航空市場に及ぼした影響に関する政策レビュー、近年の航空輸送ネットワーク市場における動向分析、エアラインの行動分析手法を用いた政策効果分析等の研究を通じて、今後の空港需要マネジメントに係る政策検討に必要な政策効果の推定・評価を支援する。

2. 研究の目的

- ・航空市場におけるエアラインの行動分析モデルの構築
- ・空港需要マネジメント政策（例えば、複数空港近接地域における空港機能分担政策、混雑料金制、ピークロード料金制など）オプションの提案と効果推定

3. 自己点検結果

(必要性)

空港整備が全国的には概成し、都市圏における適切な空港機能分担や空港容量マネジメントなど、既設空港の利用に関する空港需要マネジメント政策の重要性が今後一層高まると予想される。エアラインの行動の自由度が高まっている現在においては、こうした空港需要マネジメント政策検討にあたり、従来の実務的手法では所与として扱われていたエアラインの行動が、政策によってどのように変化するかを無視することはできない。したがって、運賃設定や便数・路線設定などのエアラインの行動も明示的に考慮した政策評価手法が必要である。

(効率性)

本研究には航空ネットワーク分析に関する専門的知識・研究蓄積が必要とされるが、空港研究部には同分野での基礎的な研究蓄積があるため、これらを有効的に活用することができる。さらに、本研究の実施にあたっては、政策立案者である国土交通本省との連携を図ることを予定しており、効率的な研究が可能である。

年度計画と研究費配分

区分 (目標、サブテーマ、分野等)	実施年度				総研究費 約 42 [百万円]
	H 2 0	H 2 1	H 2 2	H 2 3	研究費配分
航空市場の動向に関する研究	市場環境・ネットワーク動向・機材動向分析				約 7 [百万円]
空港需要マネジメントに関する政策レビューと政策効果の定性分析	政策事例レビュー		政策効果の定性分析		約 11 [百万円]
航空市場におけるエアラインの行動分析モデルの構築	モデル研究レビュー	モデル構築			約 18 [百万円]
モデルを用いた政策効果分析			政策シナリオ作成	政策効果分析	約 6 [百万円]

(有効性)

平成 23 年度からは交通政策審議会航空分科会において、上記の空港需要マネジメント政策に関する課題も含めて今後の航空政策のあり方が審議される見込みである。これに先だって、本研究により各種政策効果の推定を行うことにより、審議会における審議や政策立案において本研究成果を活用することが期待できるため、研究成果の有効性は高い。

研究課題名：エアラインの行動を考慮した空港需要マネジメントに関する研究

研究の成果目標	期待される研究成果	研究成果の活用方針(施策への反映・効果等)	備考
航空市場の動向に関する研究	市場環境、機材動向、ネットワーク動向分析	国総研のコアとしての「航空需要と空港計画の分析と評価」に資する広範囲のデータ・情報蓄積	
空港マネジメントに関する政策レビューと政策効果の定性分析	政策事例レビュー 国内外における空港需要マネジメント政策の実施および効果事例の把握	混雑空港の空港容量管理、複数空港近接地域における空港機能分担ルールなど、空港需要マネジメント施策の具体的なオプションとなりうる方法を把握	
航空市場におけるエアラインの行動分析モデルの構築	モデルによる定量分析が困難な政策効果の定性的分析	空港需要マネジメント政策検討時における代替案比較に貢献	
モデルを用いた政策効果分析	モデル研究レビュー モデル構築 政策シナリオ作成 政策効果分析	航空政策による航空ネットワークへの影響（エアラインの反応）を推定する際の分析手法として施策案評価を支援 空港需要マネジメント政策検討時において、定量的な効果分析に基づいた透明性のある代替案比較に貢献	